

専門研修プログラム名	いわくら病院	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人稲門会 いわくら病院	
プログラム統括責任者	崔 炯仁	

専門研修プログラムの概要	京都市左京区にあるいわくら病院（精神科単科）を基幹病院とする研修プログラムである。京都・岩倉の地は江戸時代から精神を病む人々の保養の地であった歴史があり、1952年に当院が設立される以前から精神医療の文化が根付いていた土地である。1970年代より開放医療に取り組み、「人と社会に開かれた病院」という理念のもと、当事者が社会の中で主体的に生きる支援を実践している。病棟構成は慢性期、精神科救急急性期、急性期、アルコール依存症治療病棟、認知症治療病棟があり統合失調症をはじめ、感情障害、摂食障害、児童・思春期等幅広い領域、年齢層の精神疾患を受け入れている。救急病棟ではクロザピンの治療も積極的に行っている。連携施設は京都大学医学部附属病院、大阪医科薬科大学病院などの6施設であり、リエゾン・コンサルテーション精神医学をはじめ緩和ケア、ECT、臨床研究にも触れることできる。3年間の研修プログラムを通して、精神保健指定医の症例の獲得も十分に可能である。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	1年目は基幹施設であるいわくら病院で指導医のもと、主に入院患者を受け持ち、症例を通して専門医としての知識、技能の習得を目指す。また指導医、多職種職員による各専門分野のセミナーを受ける。2年目、3年目はコースを選択しそれぞれ大学病院、総合病院をローテートし、主にリエゾン、コンサルテーションの経験を積む。ECT、基礎研究についても研修する。3年目は、指導医からの自立を目指す。入院に加え外来診療も担当し、依存症プログラム、摂食障害、児童思春期などの症例も経験するとともに、地域の関係機関との協働を実践する。3年間のうちに症例発表、学会発表を経験する。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1年目の基幹病院の研修では、精神保健福祉法の知識、疾患の概念と病態理解、診断基準、治療計画、精神療法、薬物療法、医療安全、感染対策、画像検査、心理検査の評価など精神科医としての基本知識をまなぶ。また患者の人格、尊厳、権利を尊重し、医師としての責任を自覚するとともに、チーム医療における協調性、対人関係能力を培う。大学病院ではリエゾン、コンサルテーションをはじめ補助検査法や基礎研究、総合病院では気分障害、不安障害、器質性精神障害などを中心に、公的病院では救急症例、薬物依存を中心に経験を積む。3年目は、救急症例、児童・思春期症例、アルコール依存症、地域との連携を含めたチーム医療を経験する。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例提示を構造的かつ簡潔に行う能力、臨床情報の整理・問題抽出能力を磨き、その結果として治療方針の提案、意見交換とその調整・合意形成、ファシリテーション能力、情報共有に至るまでの総合的なマネジメント能力を身に付ける。
	学問的姿勢	ガイドラインやエビデンスを臨床において適切に応用する力を身に付け、日々の診療で感じた疑問や問題を過去の症例や文献を調査し自ら学ぶ姿勢を基本とする。また得た学びは症例報告や学会発表で情報発信し社会に貢献できるよう尽力する。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	専攻医は、高度な専門的実践能力に加え、精神科医療に内在する倫理的課題と社会的責任を自覚し、患者・家族・地域社会から信頼されるにたる専門職としての在り方を研修期間を通して涵養することが求められる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	初年度は基幹施設で精神科医師としての基礎力を身に付け、2年目・3年目は選択したコースに従い大学病院、総合病院、公的病院をローテートする。初年度は指導医と共に精神科面接の技法、診断学、治療計画、薬物療法、関連法規等について学ぶ。2年目は基幹病院又は連携病院において指導医の指導の下、それぞれの施設の地域性、得意分野で臨床経験の幅を広げる。3年目は非自発的入院などの重症例にも単独で対応し、主体的に治療方針を決定する。また外来診療を担当する。家族面談や地域連携、多職種チーム医療の実践で総合的な臨床能力を培う。
	研修施設群と研修プログラム	基幹施設は、京都市北部の中核となる精神科単科病院、いわくら病院である。連携施設は京都大学医学部付属病院、大阪医科薬科大学病院、京都府立洛南病院、京都桂病院、公益社団法人信和会京都民医連あすかい病院、社会福祉法人京都博愛会病院の6施設であり、各施設で幅広い疾患・場面の研修が可能である。
	地域医療について	症例を通して、診療所や他科病院との連携をはじめ、精神保健福祉センター、保健所、地域包括支援センターなど地域の関係機関との連携を経験する。訪問診療により、患者・家族の生活の実際を見る事で患者理解を深め、訪問看護、就労支援、移動支援、グループホームなどの社会資源の活用について学ぶ。
専門研修の評価	研修管理システムを用いて、到達状況を毎年評価する。指導医、指導責任者は、専攻医の達成度について相互にフィードバックを行い、年度終了時に次年度の研修計画に反映させる。最終年度の研修修了時に、全研修期間の経験症例数、目標達成度、専門的技能等を評価し、プログラム管理委員会の審議を経て判定をする。	
修了判定	経験した症例、研修項目の達成度、多職種による評価を含め、プログラム管理委員会で審議し、統括責任者が最終判定を行う。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	プログラムの再評価を継続的に行い、研修の質確保に努める。また専攻医の統括的な管理、評価、環境整備、助言を行う。
	専攻医の就業環境	基幹施設の就業規則に基づき休日、有給休暇を付与する。休日：日曜祭日・土曜午後・1回/週研修日・夏期休暇3日・年末年始12/30～1/4・年次有給休暇20日 連携施設においては勤務している各施設の就業規則による。
	専門研修プログラムの改善	基幹施設の統括責任者、連携施設の指導責任者は常に各指導医、専攻医からの意見、評価を吸い上げ、定期的開催されるプログラム全体の連携会議において検討し、適時プログラムへの反映、改定を行う。

専門研修管理委員会	専攻医の採用と修了	採用は基幹施設において面接を行い決定する。3年以上の研修期間を終え専攻医・指導医による評価、多職種による評価により修了を決定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専攻医から研修の休止・中止・プログラムの移動等の申し入れがあった場合、臨時の専門研修管理委員会において検討する。また結果として専攻医の不利益とならないよう配慮する。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	サイトビジットならびに研修内容に関する監査・調査・評価はいつでも受け入れる。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	崔 炯仁（いわくら病院・院長） 岡山 達志（いわくら病院・理事長） 近藤 通子（いわくら病院・副院長） 堤 淳（いわくら病院・副院長） 西 村 正高（いわくら病院・副院長） 今岡 岳史（いわくら病院・生活支援 科長） 大浦邦康（いわくら病院・医局長） 村田 佳子（いわくら病院）	
Subspecialty領域との連続性	いわくら病院は日本精神科救急学会の認定施設、京都府依存症専門医療機関である。その他児童思春期精神医学、老年期精神医学、リハビリテーションなどのSubspecialty領域との連動が可能である。	